

流山市
ひきこもり実態アンケート調査
【結果報告書】

令和5年7月

流山市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査概要	2
第2章 ひきこもり実態アンケート調査結果（当事者）	3
1. ひきこもりの状態になっている方について	4
2. ご回答いただいている方について	5
3. ひきこもりの方の状態について	6
4. ひきこもりの方の支援について	9
第3章 ひきこもり実態アンケート調査結果（事業者） ...	12
1. ご回答いただいている方について	13
2. ひきこもりの状態にある方との関わりについて	15
3. 事業者用アンケート【別紙】	19
第4章 まとめ	24
1. まとめ	25
第5章 資料編（使用した調査票）	27
1. 当事者用アンケート	28
2. 事業者用アンケート	30
3. 事業者用アンケート【別紙】	31

第1章 調査の概要

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、ひきこもりの悩みを抱えている方や困っている方の支援について検討するにあたり、ひきこもりの状態にあるご本人やご家族、また近しい方、更に看護・介護・障害者等支援事業者の皆様や、民生委員・児童委員、主任児童委員の皆様などを対象にアンケートによる実態調査を行い、今後のひきこもりに関する支援策の資料とさせていただくため実施しました。

(2) 調査対象者

ひきこもりの状態にあるご本人やご家族、また近しい方、更に看護・介護・障害者等支援事業者の皆様や、民生委員・児童委員、主任児童委員の皆様など

(3) 調査方法と調査期間

調査方法：市ホームページのアンケートフォームにて回答（当事者）
直接配布、直接回収（民生委員・児童委員、主任児童委員）
郵送配布、郵送回収（事業者）

調査期間：令和5年2月1日～令和5年2月28日

(4) 報告書を見る際の注意点

- ①調査結果の比率は、その設問の回答者を母数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100.0%にならない場合があります。
- ②複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100.0%を超えます。
- ③図表中の「n」とは、回答者数を表します。なお、未回答者は母数から除いています。
- ④選択肢の語句が長い場合、本文中や表・グラフでは省略した表現を用いていることがあります。
- ⑤回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があります。

第2章 ひきこもり実態アンケート調査結果(当事者)

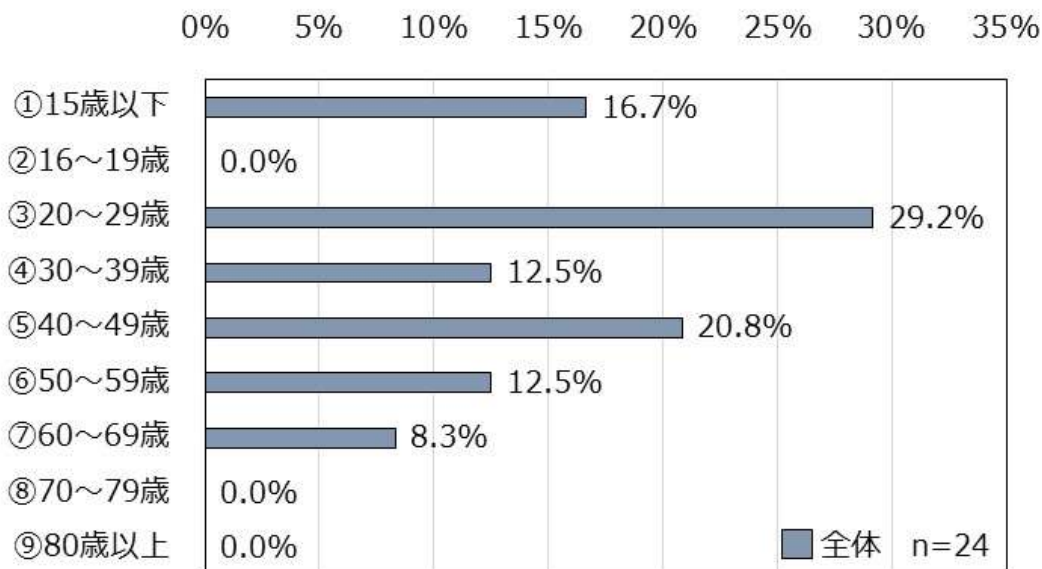
1. ひきこもりの状態になっている方について

当事者用アンケートは、24名の回答がありました。

よって24名を母数とし、調査結果を算出しています。なお、設問ごとに未回答は母数から除いています。

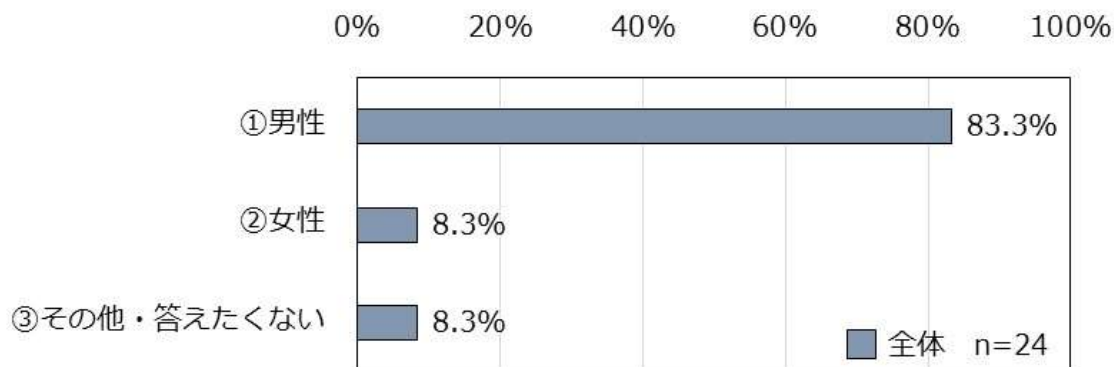
問1 ひきこもり状態になっている方の年齢を教えてください。

年齢については、「20～29歳」が29.2%で最も多く、次いで「40～49歳」が20.8%、「15歳以下」が16.7%となっています。



問2 ひきこもり状態になっている方の性別を教えてください。

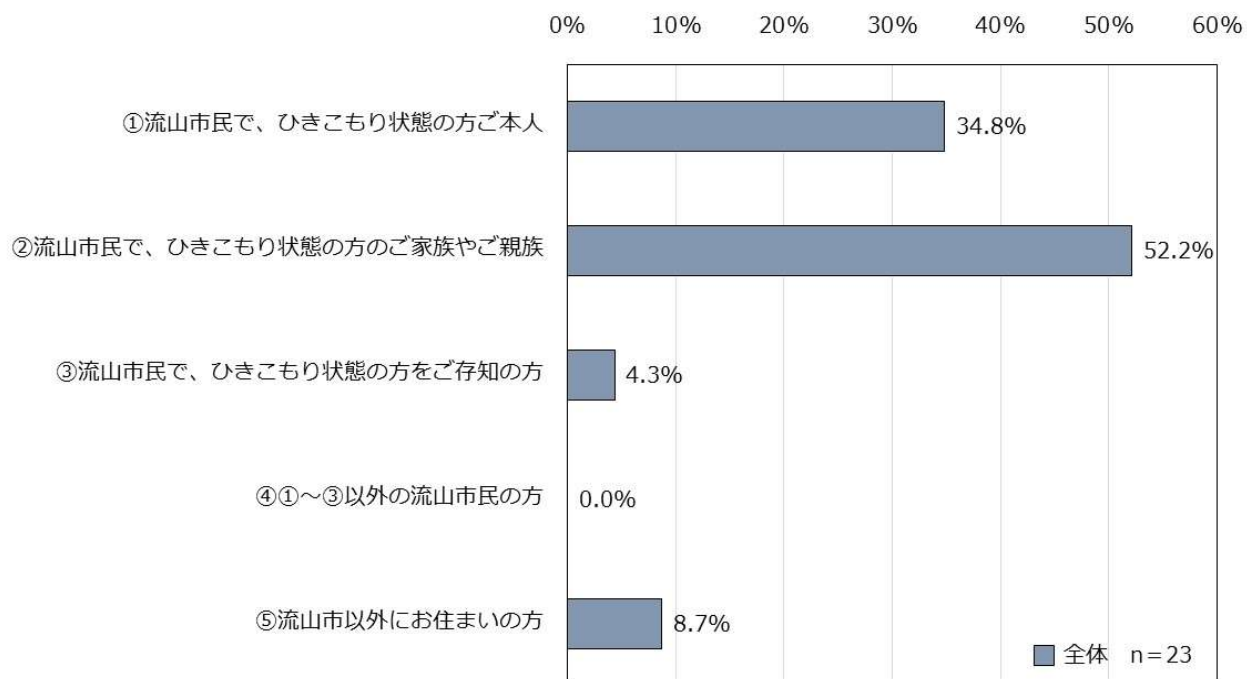
性別については、「男性」は83.3%、「女性」は8.3%となっています。



2. ご回答いただいている方について

問3 アンケートにご回答いただいている方はどなたですか。

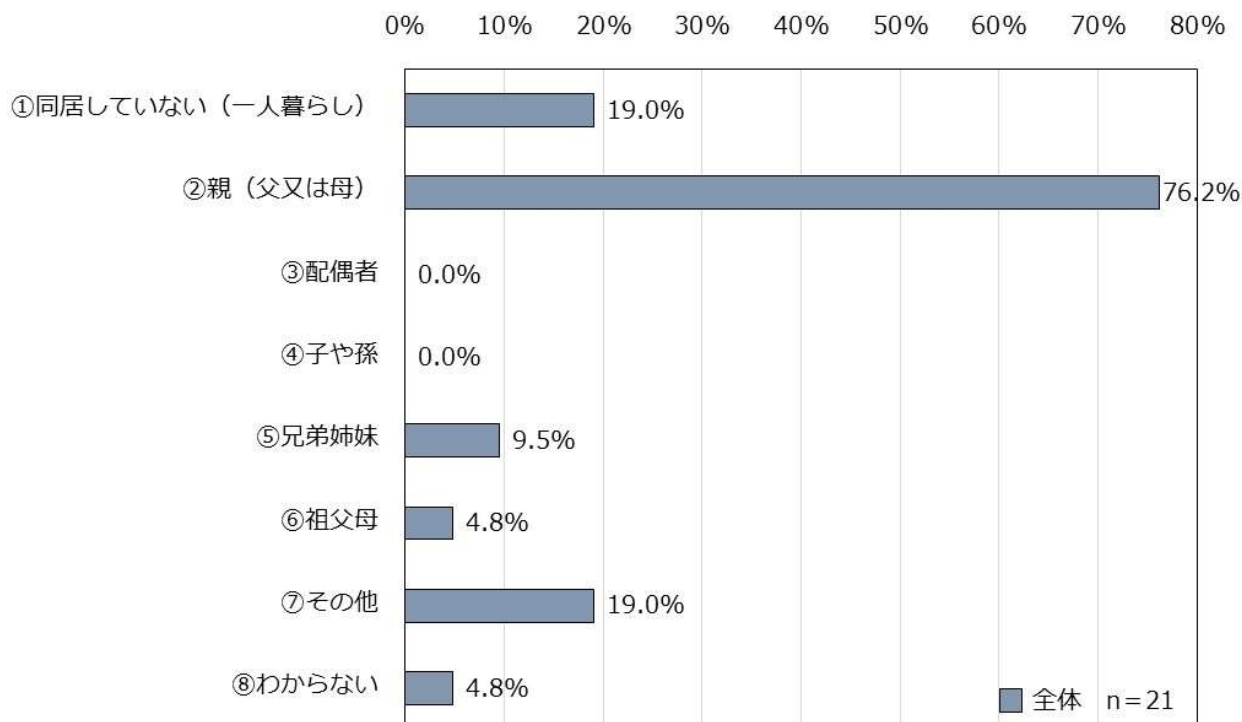
回答者については、「流山市民で、ひきこもり状態の方のご家族やご親族」が 52.2%で最も多くなっています。



3. ひきこもりの方の状態について

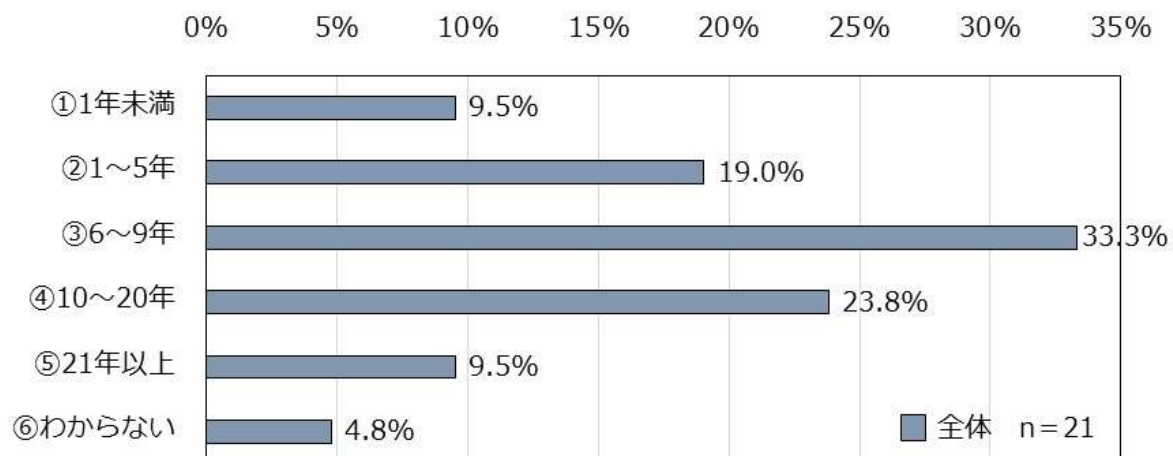
問4 問3で回答されたひきこもり状態の方はどのような方と同居していますか。(複数回答可)

同居者については、「親(父又は母)」が76.2%と多くなっており、次いで「同居していない(一人暮らし)」が19.0%、「兄弟姉妹」が9.5%となっています。



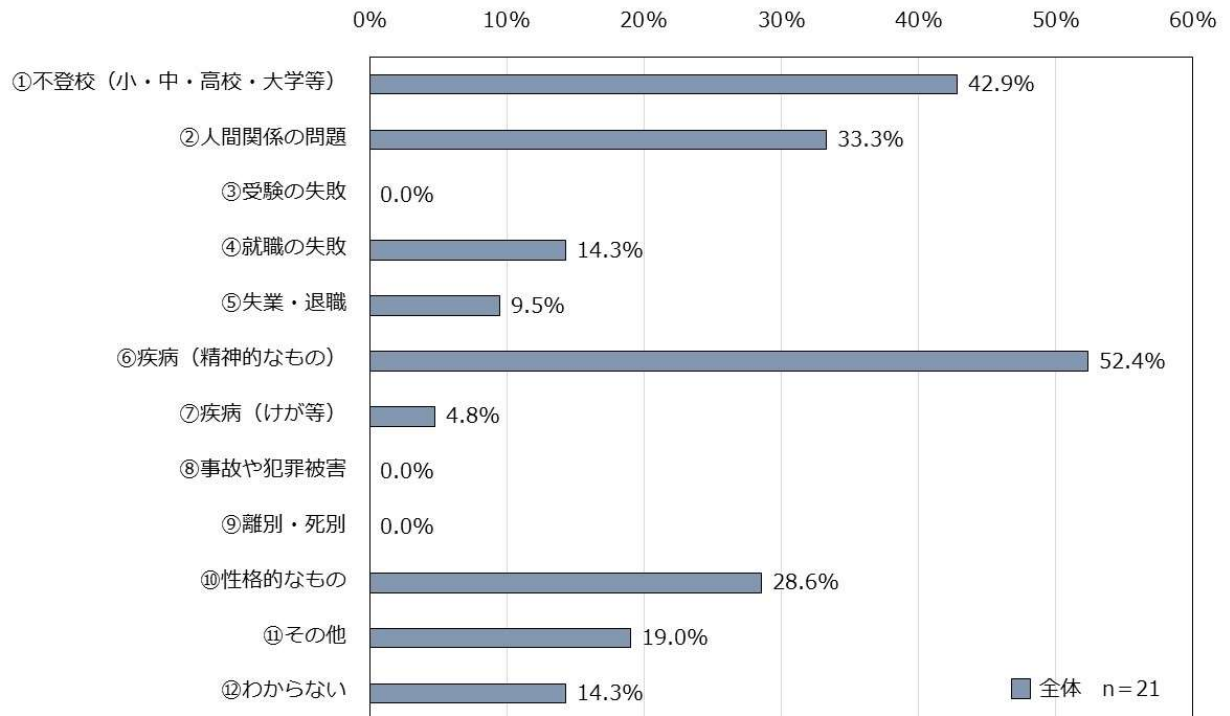
問5 問3で回答されたひきこもり状態の方は、ひきこもり状態になってからどの位の期間が経ちましたか。

「6~9年」が33.3%で最も多く、次いで「10~20年」が23.8%、「1~5年」が19.0%となっています。



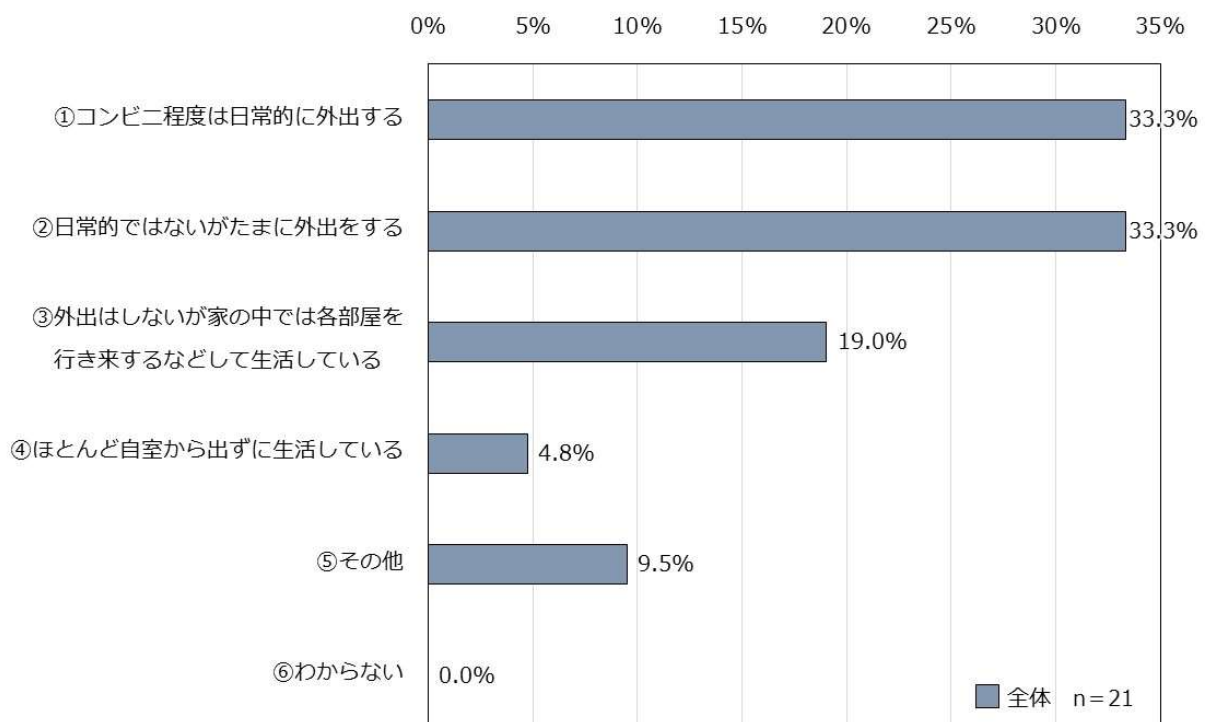
問6 問3で回答されたひきこもり状態の方が、ひきこもり状態になったきっかけを教えてください。
(複数回答可)

ひきこもりの状態になったきっかけについては、「疾病（精神的なもの）」が52.4%で最も多く、次いで「不登校（小・中・高校・大学等）」が42.9%となっています。



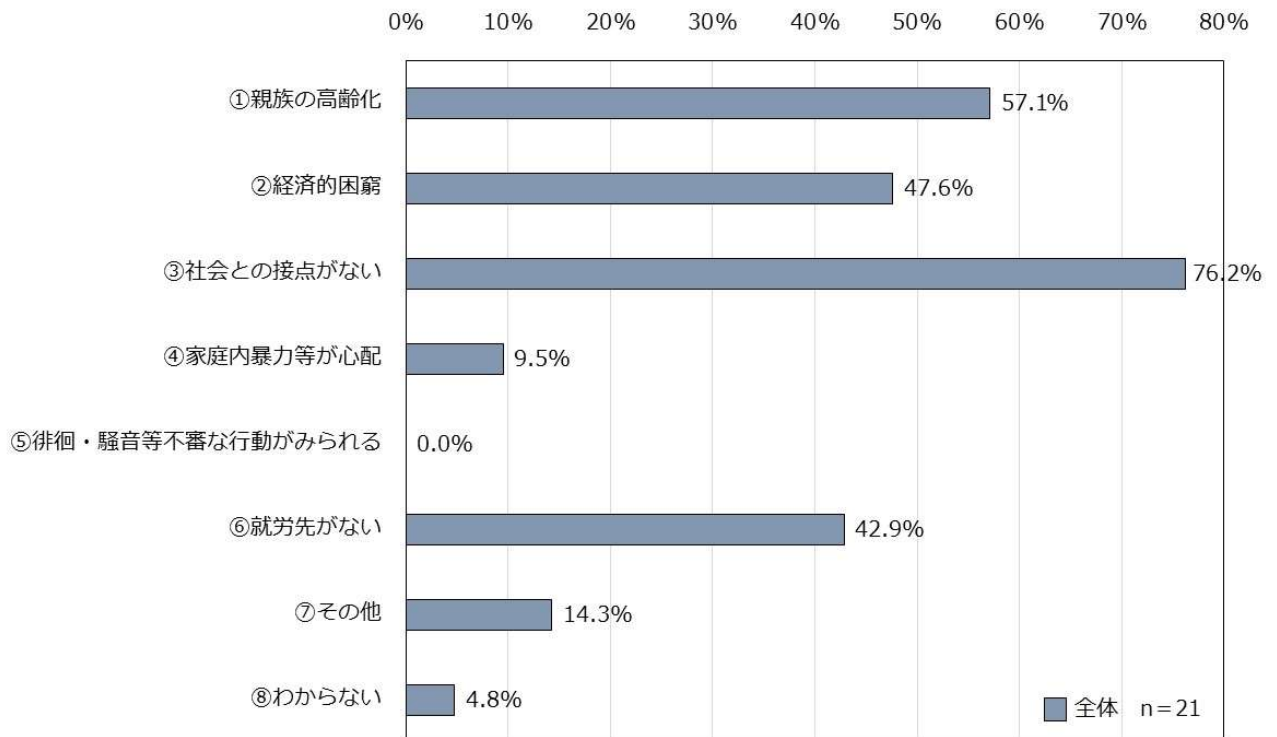
問7 問3で回答されたひきこもり状態の方のひきこもりの度合いを教えてください。

ひきこもりの状態の度合いについては、「コンビニ程度は日常的に外出する」、「日常的ではないがたまに外出をする」ともに 33.3%、「外出はしないが家の中では各部屋を行き来するなどして生活している」が19.0%となっています。



問8 問3で回答されたひきこもり状態の方やその家族が抱える問題点は何ですか。(複数回答可)

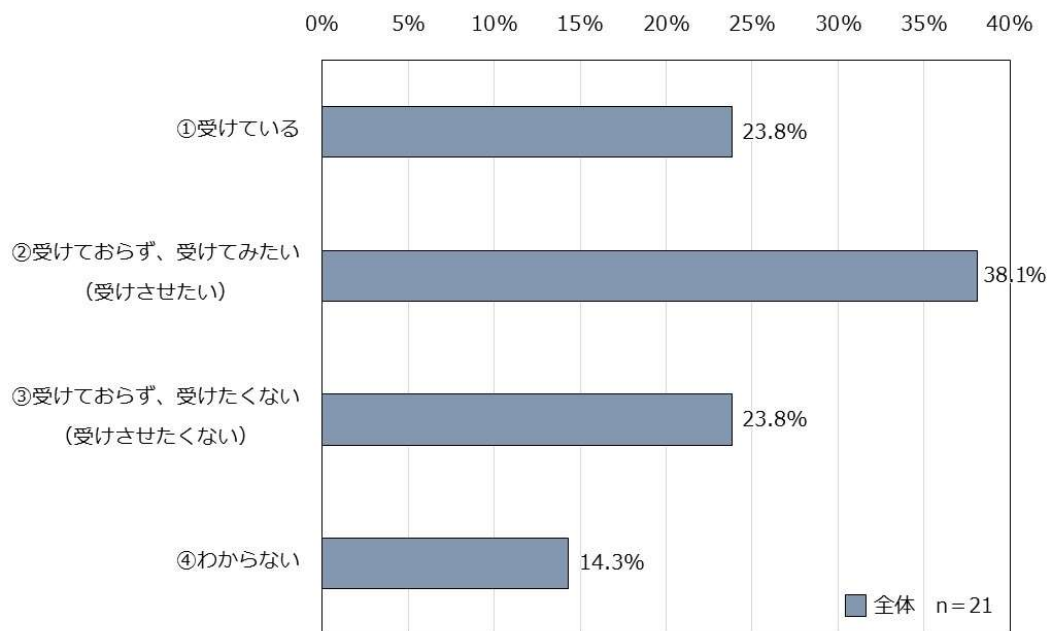
ひきこもりの状態の方やその家族が抱える問題点については、「社会との接点がない」が76.2%で最も多く、次いで「親族の高齢化」が57.1%、「経済的困窮」が47.6%となっています。



4. ひきこもりの方の支援について

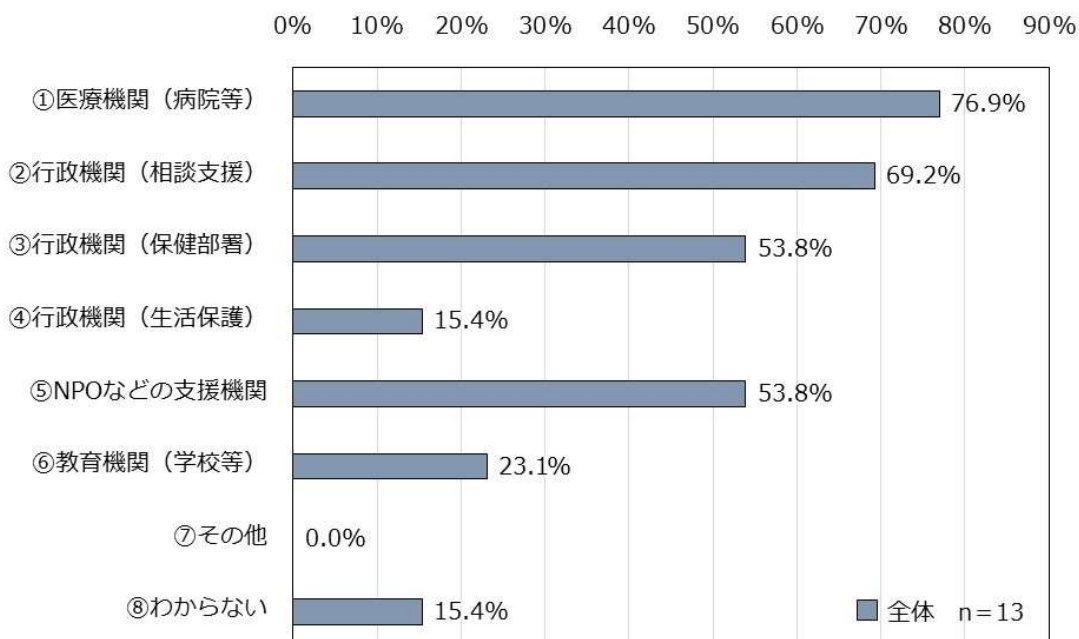
問9 問3で回答されたひきこもり状態の方は現在（相談）支援を受けていますか。

ひきこもりの状態の方が（相談）支援を受けているかについては、「受けておらず、受けてみたい（受けさせたい）」が38.1%で最も多く、次いで「受けている」、「受けておらず、受けたくない（受けさせたくない）」が23.8%となっています。



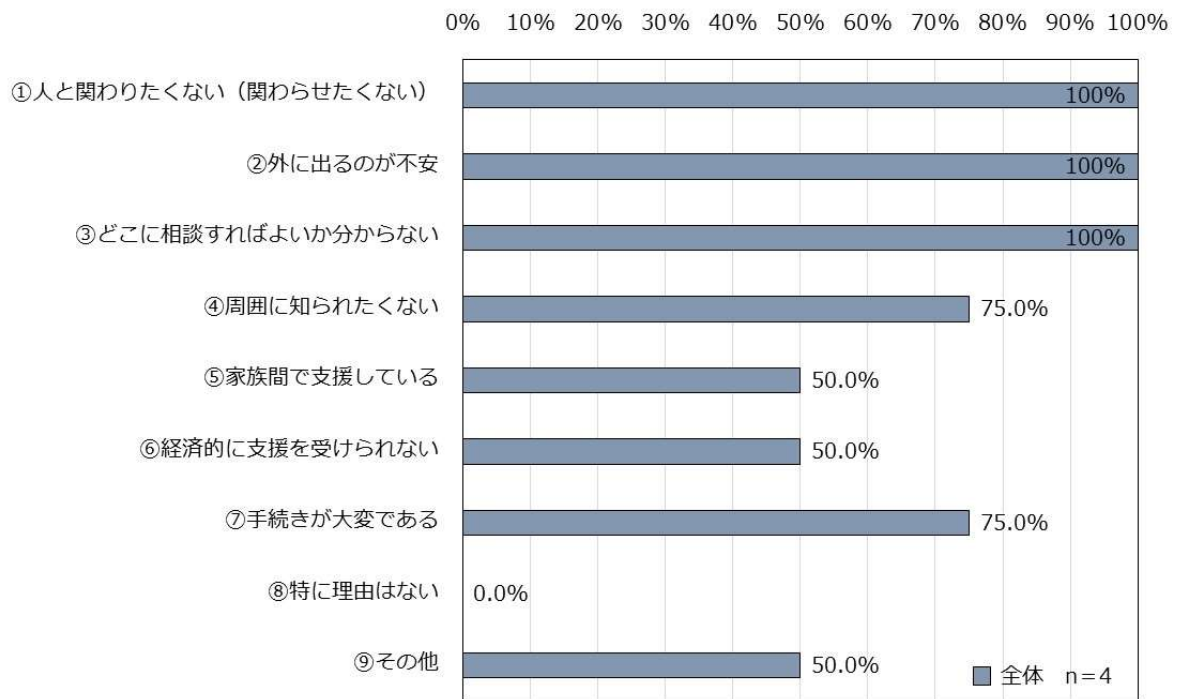
問10 問3で回答されたひきこもり状態の方が、現在（相談）支援を受けている、または受けてみたい（受けさせたい）ところはどこですか。（複数回答可）

ひきこもりの状態の方が現在（相談）支援を受けているまたは受けてみたい（受けさせたい）ところは、「医療機関（病院等）」が76.9%で最も多く、次いで「行政機関（相談支援）」が69.2%、「行政機関（保健部署）」、「NPOなどの支援機関」が53.8%となっています。



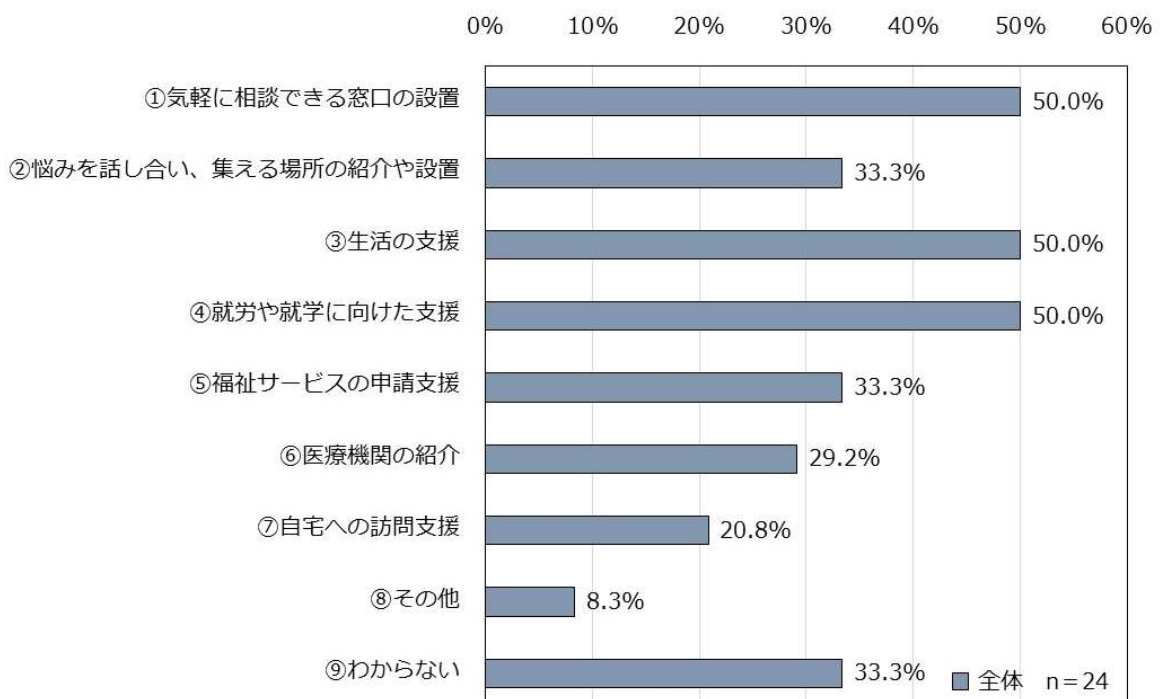
問 11 問 9 で回答されたひきこもり状態の方が、(相談) 支援を受けたくない (受けさせたくない) 理由を教えてください。(複数回答可)

ひきこもりの状態の方が、(相談) 支援を受けたくない (受けさせたくない) 理由については、「人と関わりたくない (関わらせたくない)」、「外に出るのが不安」、「どこに相談すればよいか分からない」が多くなっています。



問 12 ひきこもり状態の方にどのような支援が必要と考えますか。(複数回答可)

ひきこもりの状態の方にどのような支援が必要かについて、「気軽に相談できる窓口の設置」、「生活の支援」、「就労や就学に向けた支援」が50.0%となっています。



問13 自由意見

自由意見については、個人的な情報も含まれていたので主旨を変えない範囲で要約し、以下の通り抜粋しました。

内容	
サービス	施設の相談回数の増加、相談後のケア、家庭訪問を充実させてほしい
教育	小中学校に教室以外の居場所がない 市内小学校に外部の専門家の常駐や市教育委員会が積極的に介入してほしい
行政の制度・施策	流山が近年発展しているのは嬉しい反面、ひきこもり対策にも是非とも早く取り組んでほしい
インフラ等	社会に順応していけるよう交流してくれる機関や団体、相談窓口の充実 月に1回だけでもおおたかの森辺りに障害者支援課の出張窓口を作してほしい 市役所の窓口に行かなくても気軽に相談できるところがほしい ゆるく長くつながれるような居場所を作してほしい 年金事務所やハローワークの管轄を人口的にも流山に作してほしい
行政の対応	一人暮らしのひきこもりの情報は収集しておくべきだと思う。その情報をもとに、生活の様子が伺えない期間が長いときは、警察に相談するなど、行政が主体的に動くべきだと思う
就労	軽作業でいいので働き口を作るのがいいと思う

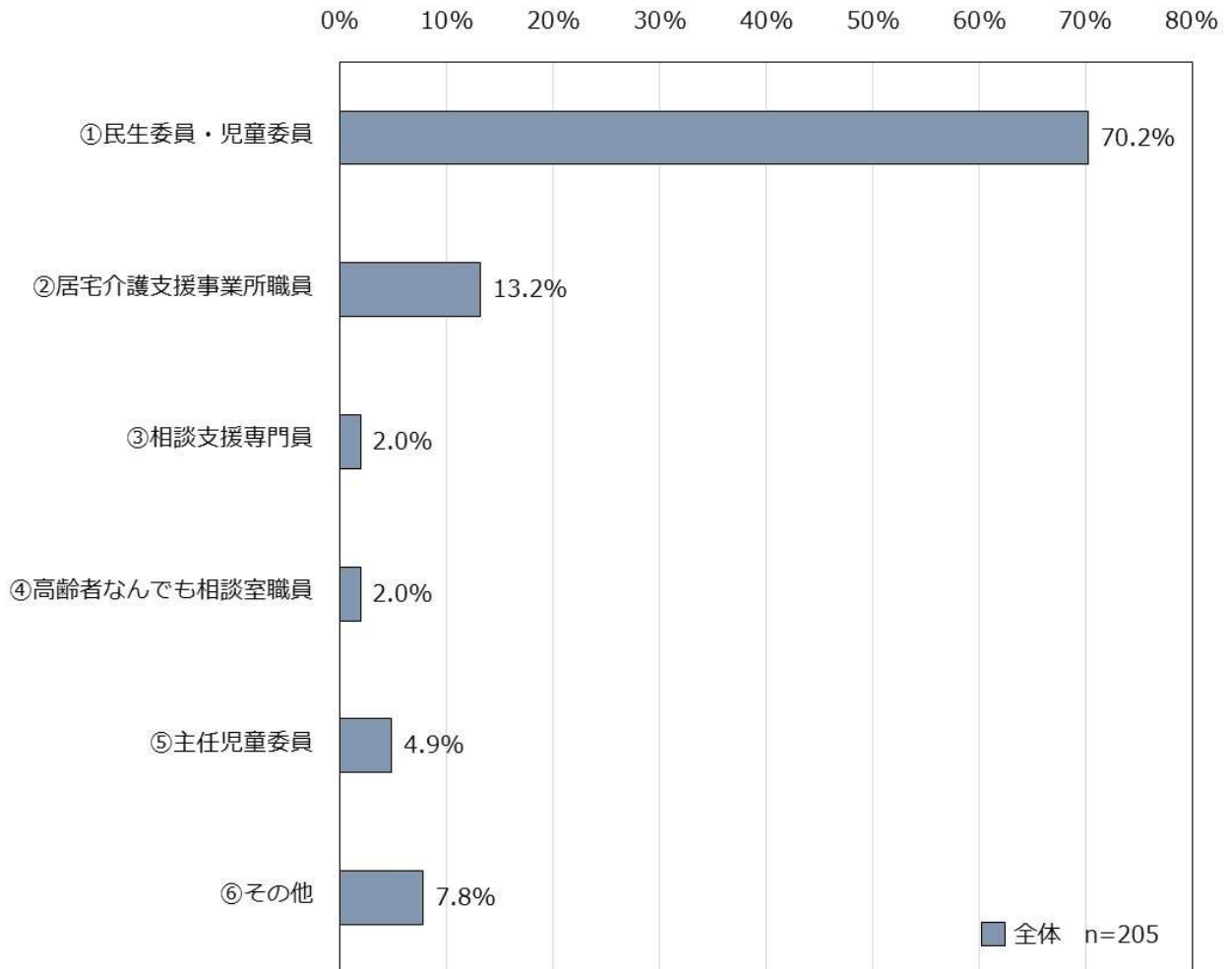
第3章 ひきこもり実態アンケート調査結果(事業者)

1. ご回答いただいている方について

事業者用アンケートは、「民生委員・児童委員、主任児童委員」168名、「介護・障害者支援事業者等」124名計292名に調査票を郵送配布しました。

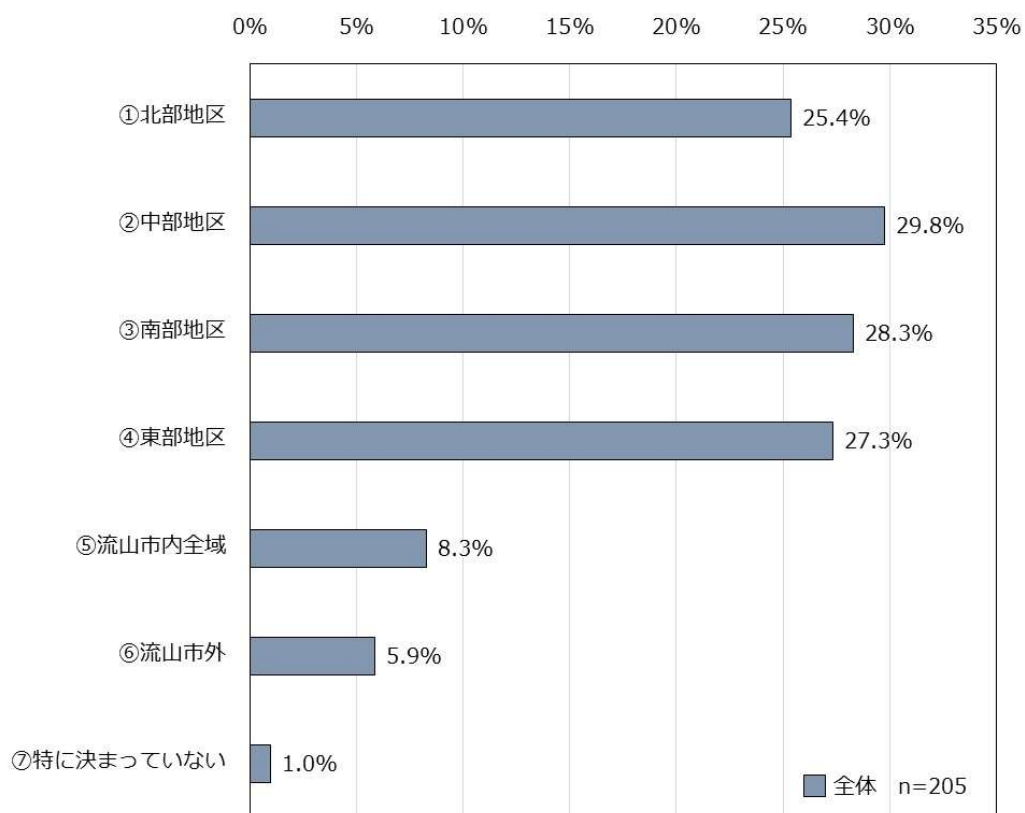
総回答者数は205名で回答率は70.2%となっています。よって205名を母数とし、調査結果を算出しています。なお、設問ごとに未回答は母数から除いています。

問1① アンケートにご回答いただいている方のお立場を教えてください。



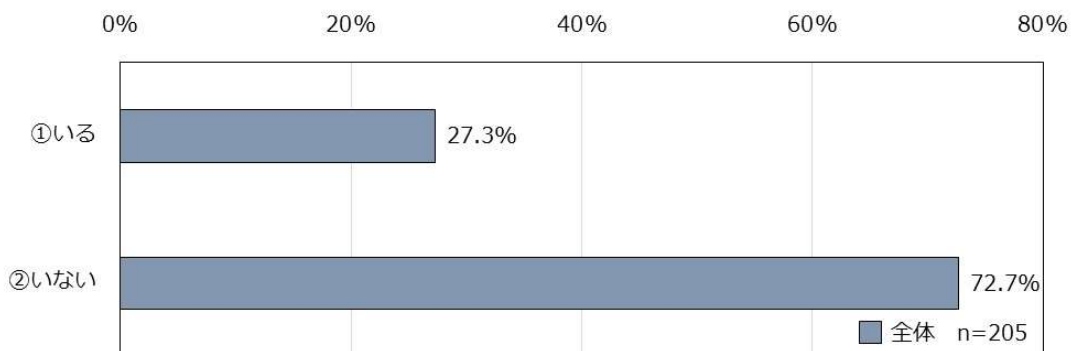
問1② ご担当されている地域はどちらですか。(複数回答可)

担当されている地域については、「中部地区」が29.8%、「南部地区」が28.3%、「東部地区」が27.3%となっています。



問1③ 周囲に流山市在住でひきこもり状態にある方はいらっしゃいますか。

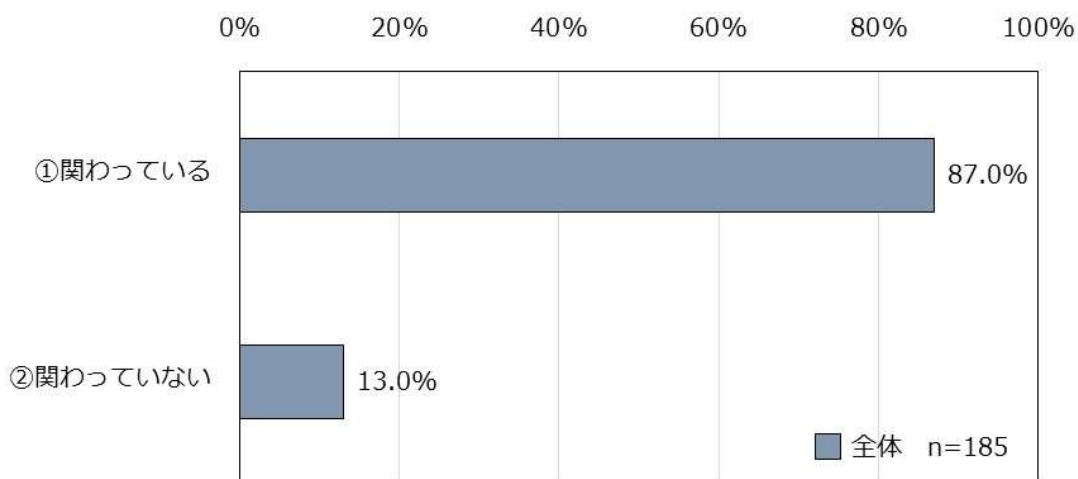
周囲に流山市在住でひきこもりの状態にある方がいるかについては、「いる」が27.3%、「いない」が72.7%となっています。



2. ひきこもりの状態にある方との関わりについて

問2① ひきこもり状態にある方と関わっていますか。

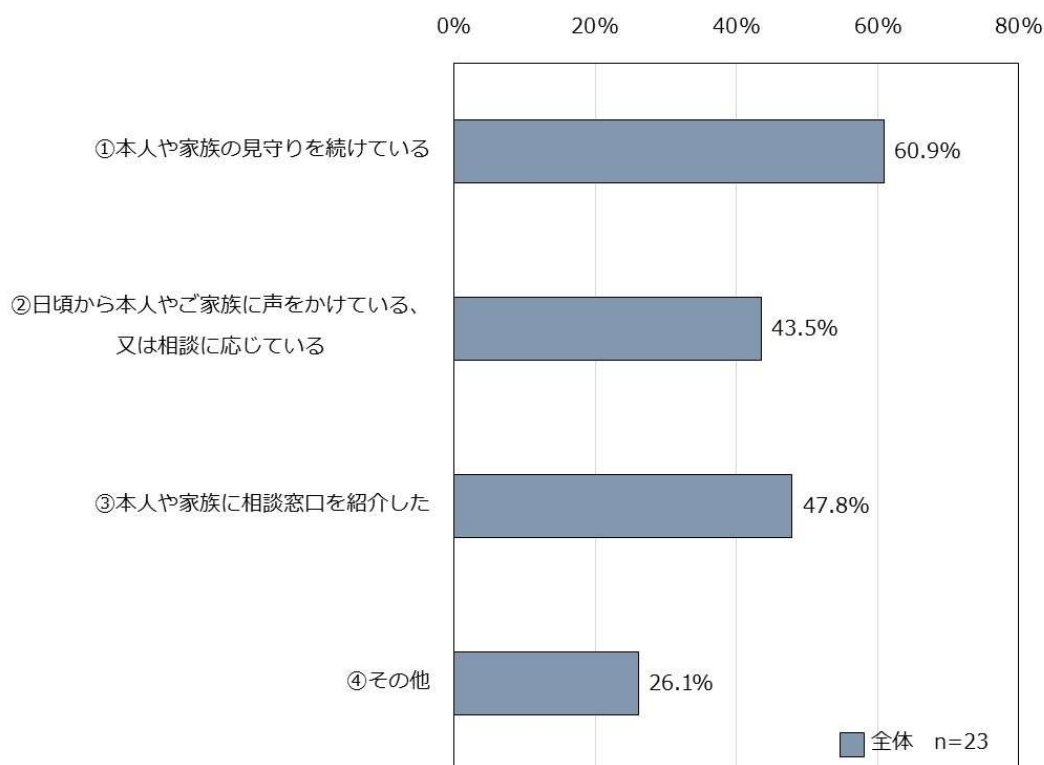
ひきこもりの状態にある方と関わっているかについては、「関わっている」が87.0%、「関わっていない」が13.0%となっています。



問2② ひきこもり状態にある方とどのように関わっていますか。(複数回答可)

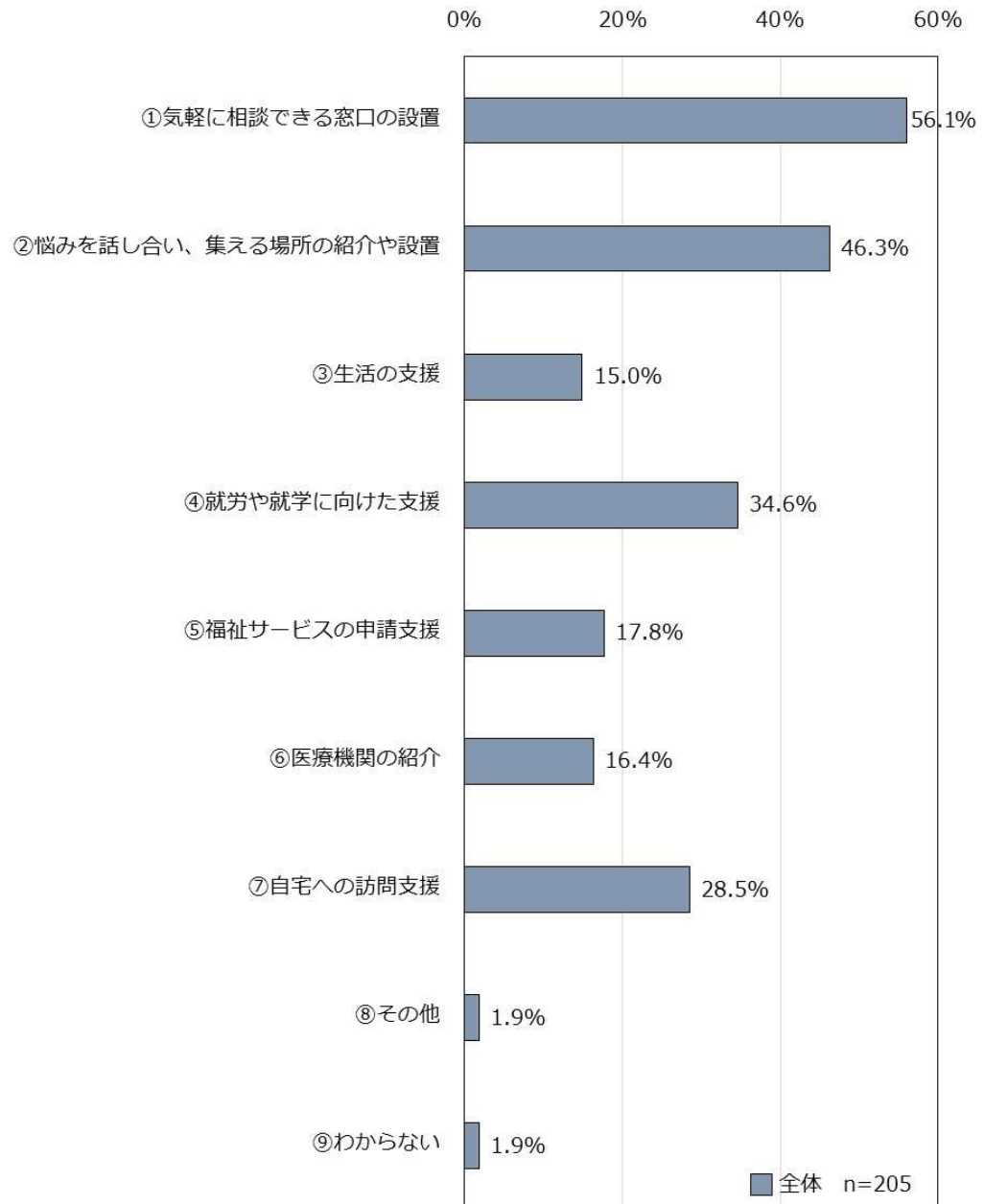
※問2①で①を選択した方のみ回答

ひきこもりの状態にある方とどのように関わっているかについては、「本人や家族の見守りを続けている」が60.9%、「本人や家族に相談窓口を紹介した」が47.8%、「日頃から本人やご家族に声をかけている、又は相談に応じている」が43.5%となっています。



問2③ ひきこもり状態にある方との関わりについて、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきと考えますか。(複数回答可)

行政は今後どのようなことに力を入れていくべきかについては、「気軽に相談できる窓口の設置」が56.1%、「悩みを話し合い、集える場所の紹介や設置」が46.3%、「就労や就学に向けた支援」が34.6%となっています。



問3 自由意見

自由意見については、個人的な情報も含まれていたため主旨を変えない範囲で要約し、以下の通り抜粋しました。

内容	
サービス	定期訪問のシステム（事業）があった方が良い
	ひきこもり状態になる前の段階で相談できる場所とつながっていただけることも大切だと思う
	個別のアセスメントをして、対策を個別に考えることが必要だと思う
	相談窓口で相談するか迷っている人も話しやすい機会を作った方が良く思う
	訪問支援がとても大切だと思う
	アウトリーチが不足している
	相談窓口を設置しても自ら相談しようとは思えず、無意味だと思う。集える場所の紹介や設置も、本人は出ていけないので無理だと思う
	見守る人たちの対応など勉強会を開いてもらえると良いと思う
インフラ等	若い人から高齢者まで気軽に相談しやすい相談窓口の設置
	悩みを話し合い、集える場所の紹介や設置が必要
	65歳以下の方の包括センターのような場所があれば良いと思う
体制作り	ケースごとに適切な対応ができるケアチーム作りが重要だと思う
	個別に尚且つ家庭に深く継続的に関われる体制が必要だと思う
	ワンストップで支援できる体制が大切だと思う
	関係機関の繋がりや相談窓口の一本化が必要
	情報を得るため、自治会などと密接な連携が必要だと思う
	ひきこもり状態という判断の基準が難しく、情報も得づらいため、事業者にも情報を共有して、見守りや、機関へ継ぐことができれば良いと思う
	ひきこもりの状態を把握し、支援者が情報を受けとり、対応できるようなシステムが必要
	支援するにあたって個人情報保護が壁であるため、情報の共有化ができるとう良い
	一人暮らしの人など何か幅広く調べる方法があるといい
	未成年の段階にこそ、支援を重点的に持ってきてほしい
	医療の目、視点も必要になると思う

行政	
	事業連携の推進が対策への近道だと思う
	8050問題など社会問題になっているため、行政には、色々取り組んでいただきたい
	本人や家族に対して行政からの助けが必要だと思う
	ひきこもりの方が未成年の場合は、就学の機会が失われていないかなどある程度の介入が必要だと思う
	子供の実態を学校と行政でスムーズに連携してほしい
	民生委員などの不足をなくすためにも、負担軽減に向けた制度や体制の見直しを市や県、国でも積極的に検討いただきたい
	引きこもり状態の方も含め、お困りごとの多様化や地域内でのコミュニケーションの変化から、民生委員の訪問、見守り活動の負担が増えているように感じる
周知方法	
	電話やインターネットを利用して相談できる窓口を広くPRする
	医療機関の情報などもっと告知の方法を広げてほしい
	LINEなどで気負わずに相談先を知ることができるといいと思う
	若い人が情報を受けとることができるよう送り届けることが必要だと思う
	市のホームページや広報で、本人や家族に市で行っている対策をお知らせする活動があっても良いと思う
家族への支援	
	家族会のようなものがあれば、お互い家族同士が話しやすいと思う
	家族の方と対策方法を検討することが必要だと思う
	子供だけでなく、家族へのフォローが必要だと思う

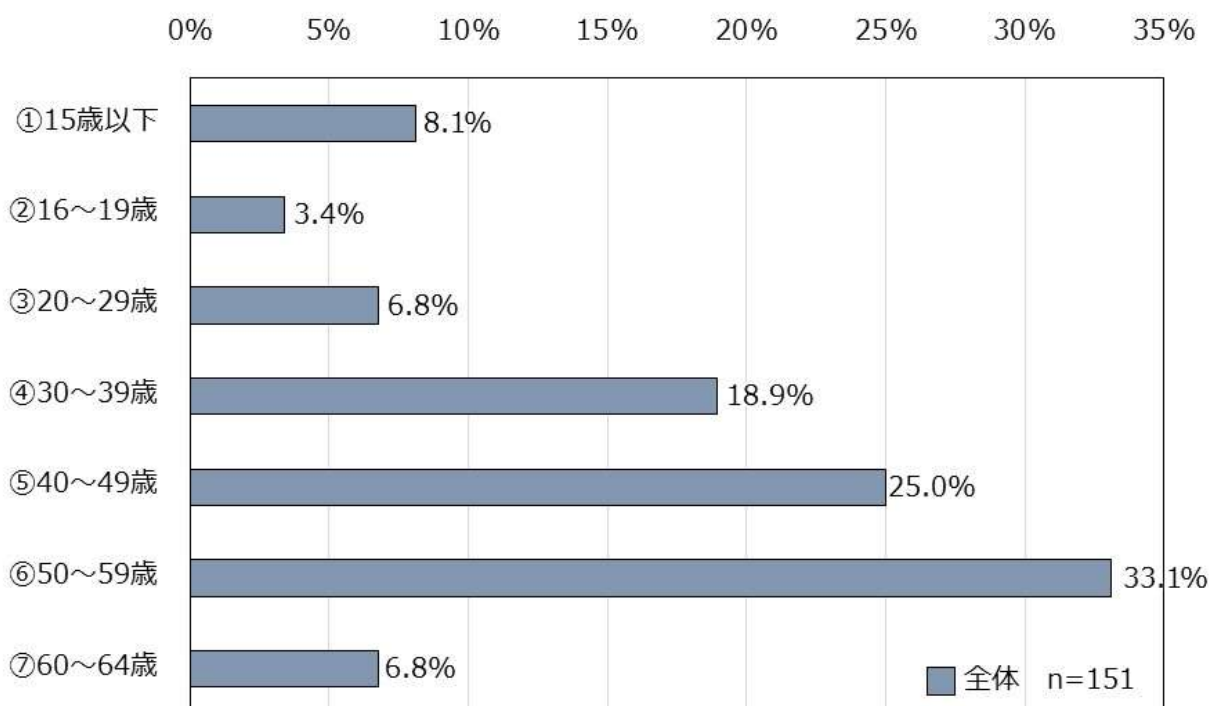
3. 事業者用アンケート【別紙】

事業者用アンケート【別紙】は、154名分のひきこもりの状態にある方について回答がありました。よって154名を母数とし、調査結果を算出しています。なお、設問ごとに未回答は母数から除いています。

問1の③で回答されたひきこもり状態にある方について

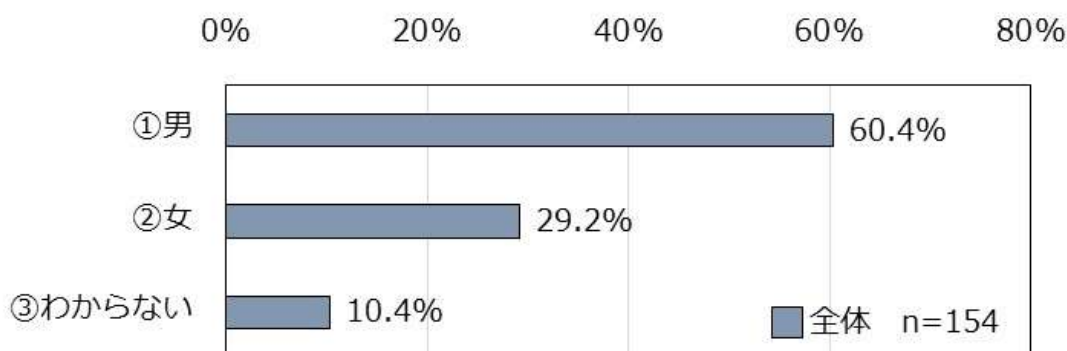
① その方の年齢を教えてください。

ひきこもりの状態にある方の年齢については、「50～59歳」が33.1%、「40～49歳」が25.0%となっています。



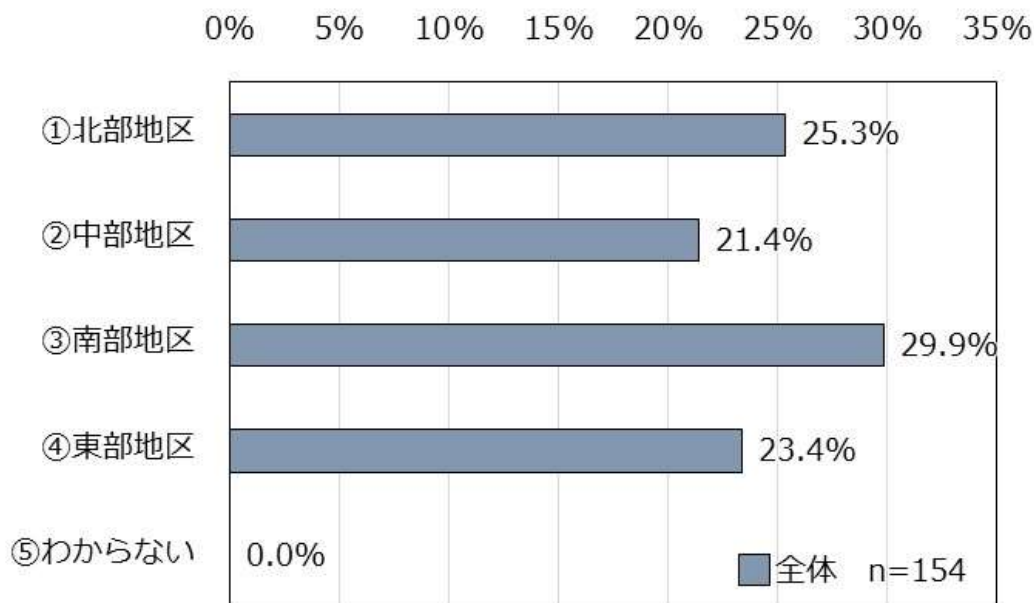
② その方の性別を教えてください。

ひきこもりの状態にある方の性別については、「男」が60.4%、「女」が29.2%となっています。



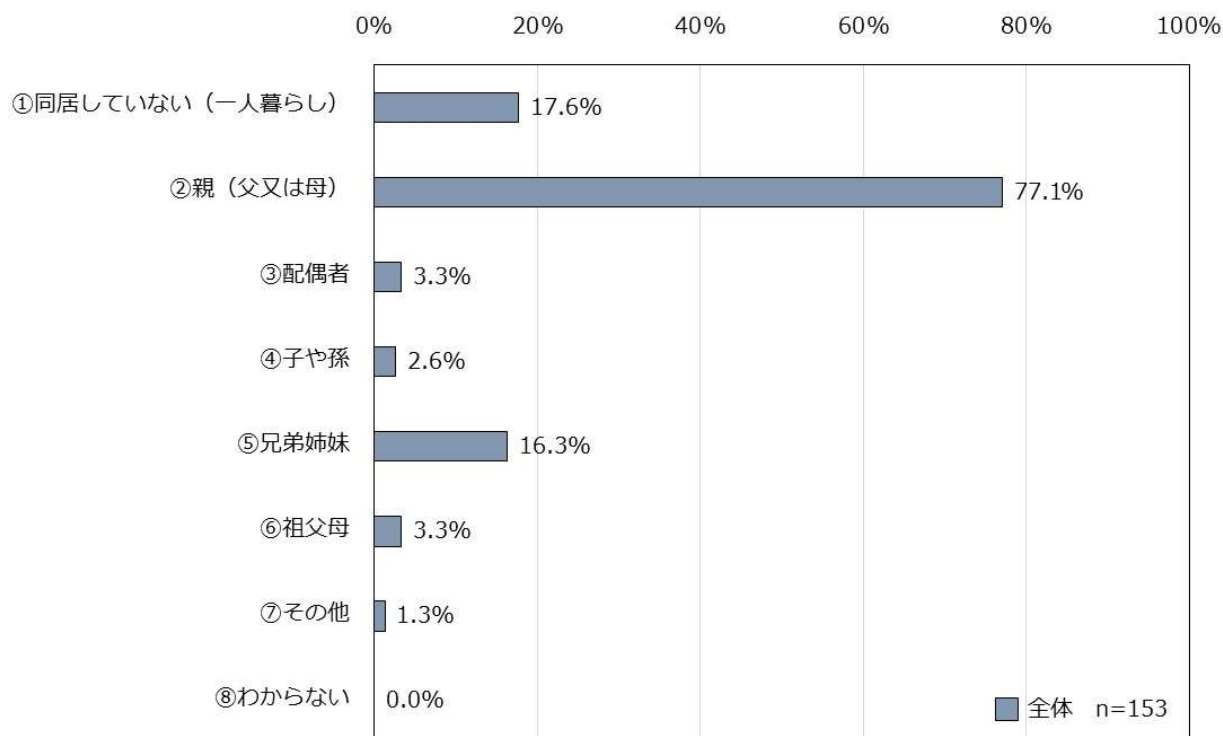
③ その方のお住まいを教えてください。

ひきこもりの状態にある方の住まいについては、「南部地区」が29.9%、「北部地区」が25.3%となっています。



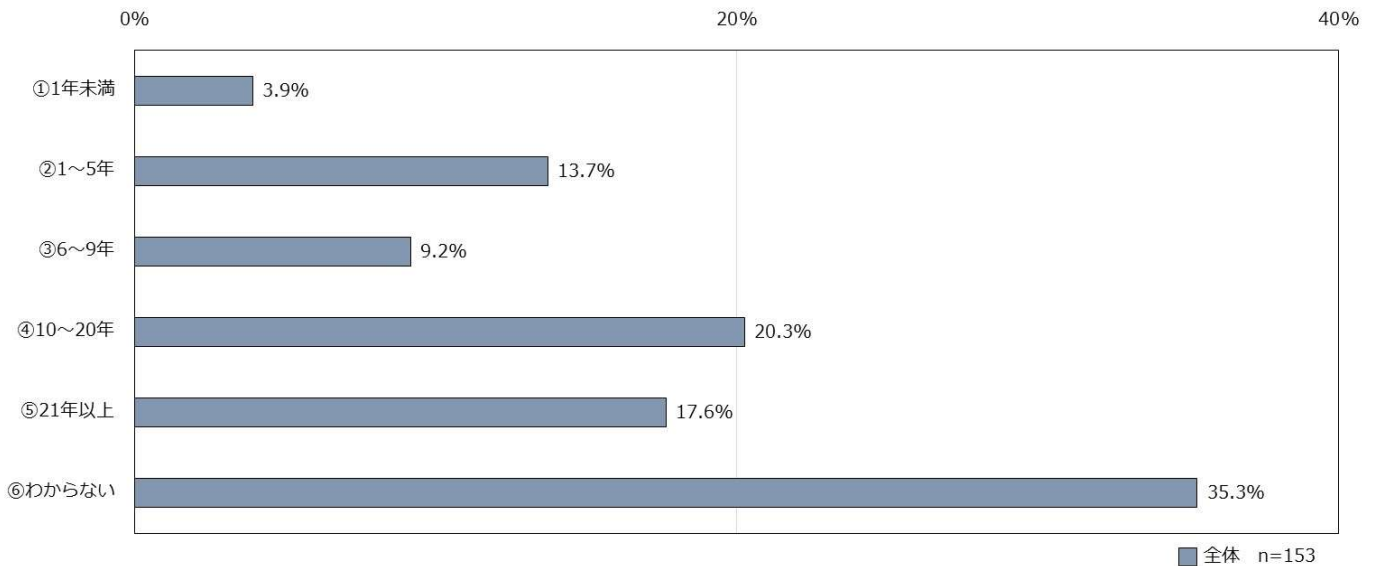
④ その方の同居の家族を教えてください。(複数回答可)

ひきこもりの状態にある方の同居の家族については、「親（父又は母）」が77.1%、「同居していない（一人暮らし）」が17.6%となっています。



⑤ その方がひきこもり状態になってからの期間を教えてください。

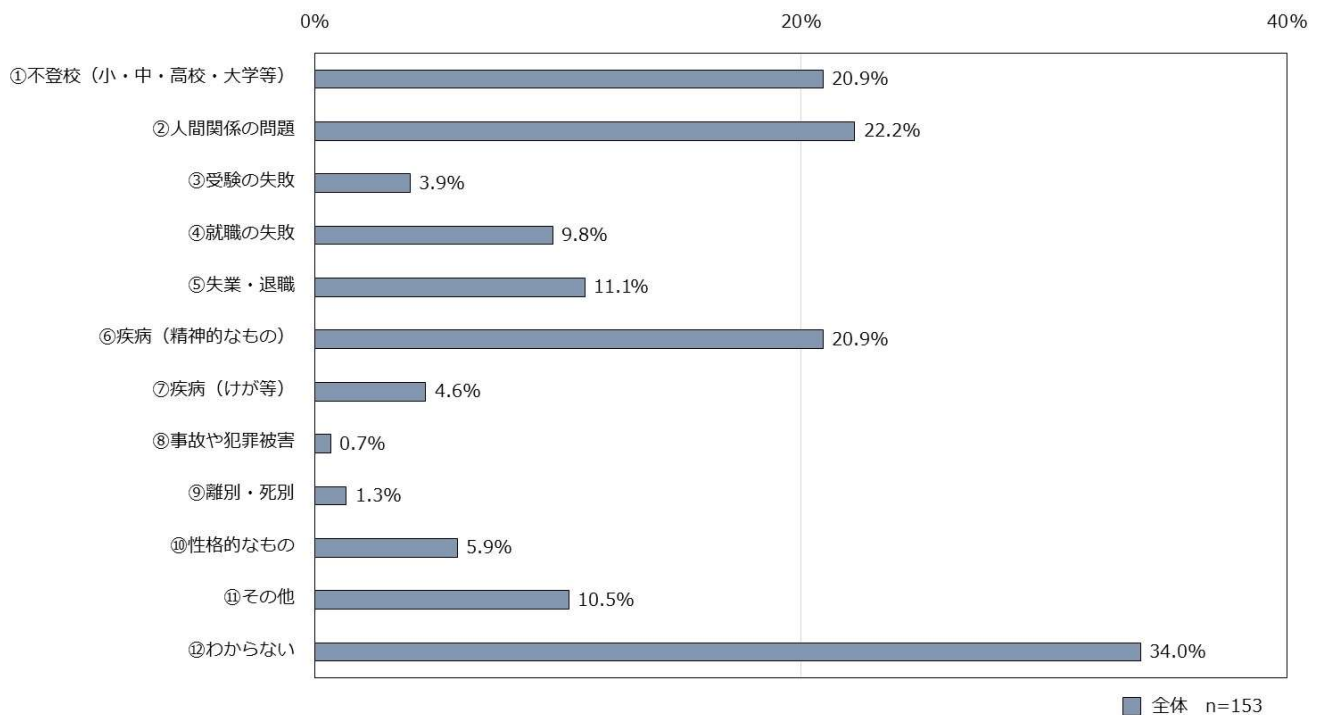
ひきこもりの状態になってからの期間については、「10～20年」が20.3%、「21年以上」が17.6%となっています。



⑥ その方がひきこもり状態になったきっかけを教えてください。（複数回答可）

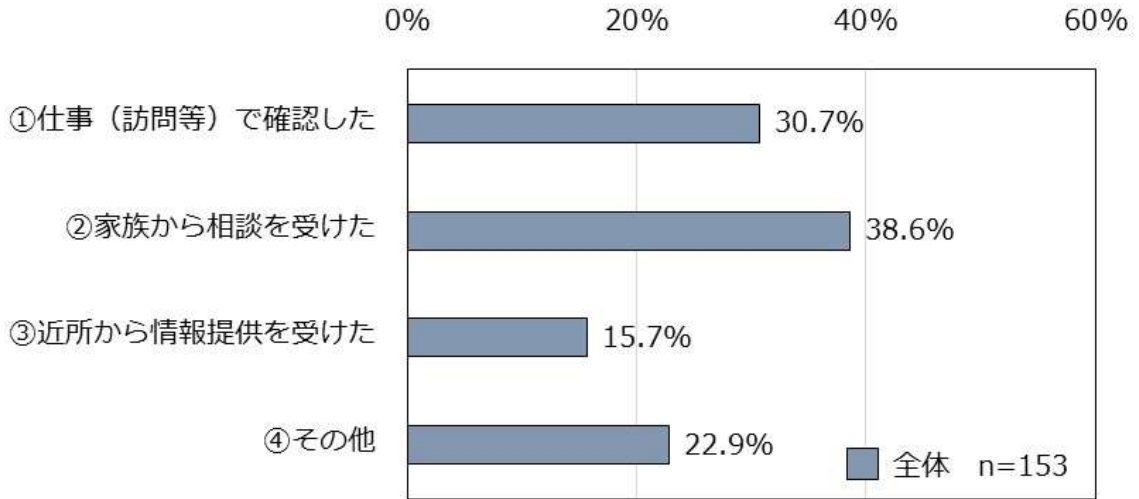
ひきこもりの状態になったきっかけについては、「人間関係の問題」が22.2%、「不登校（小・中・高校・大学等）」、「疾病（精神的なもの）」が20.9%となっています。

「その他」には「いじめ」、「親の介護」、「家族の過度な心配」などとなっています。



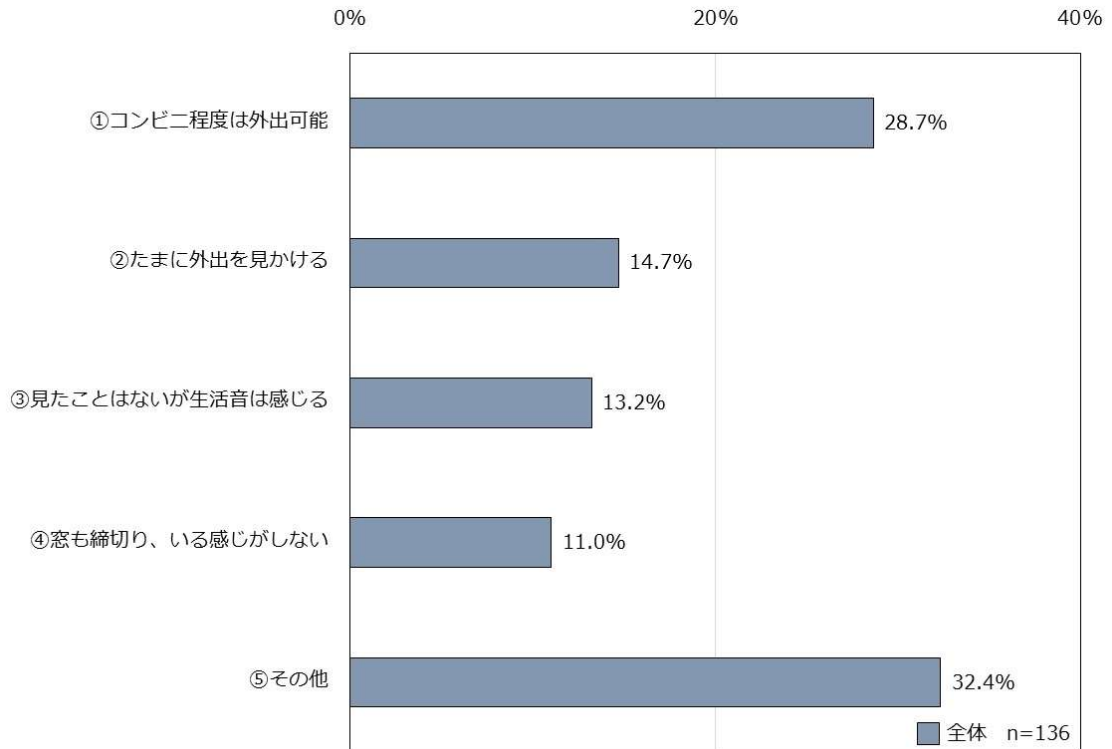
⑦ その方がひきこもり状態にあることをどこで知りましたか。(複数回答可)

ひきこもりの状態にあることをどこで知ったかについては、「家族から相談を受けた」が38.6%、「仕事（訪問等）で確認した」が30.7%、「近所から情報提供を受けた」が15.7%となっています。「その他」には“本人から聞いた”、“登校見守り時姿を見なくなった”などとなっています。



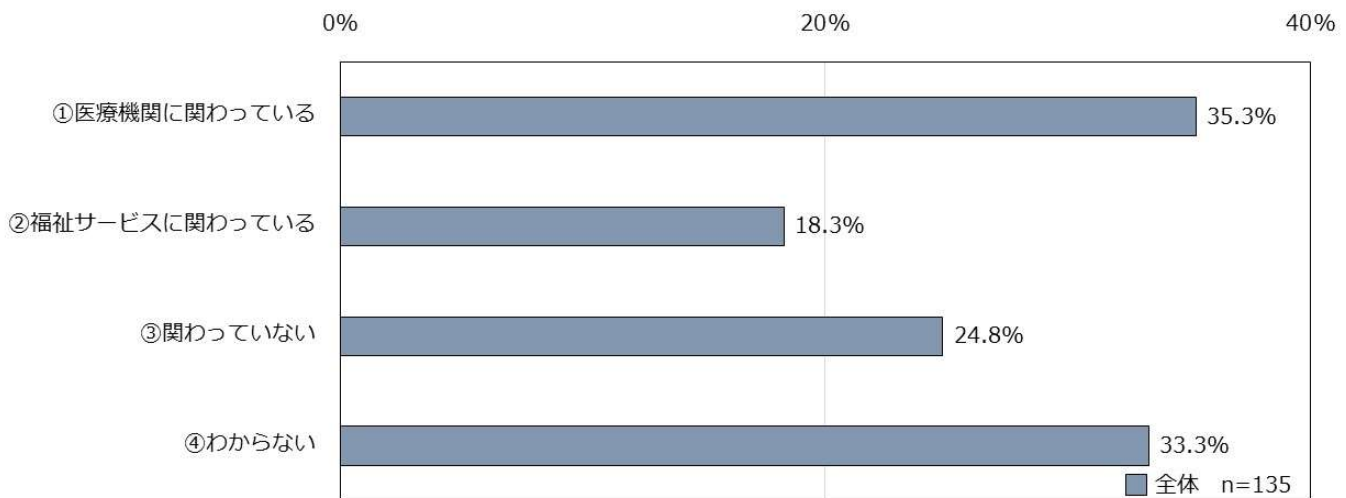
⑧ その方のひきこもり状態の度合いを教えてください。

ひきこもりの状態の度合いについては、「コンビニ程度は外出可能」が28.7%、「たまに外出を見かける」が14.7%となっている反面「窓も締切り、いる感じがしない」方も11.0%となっています。



⑨ その方は医療機関や福祉サービスと関わりがありますか。(複数回答可)

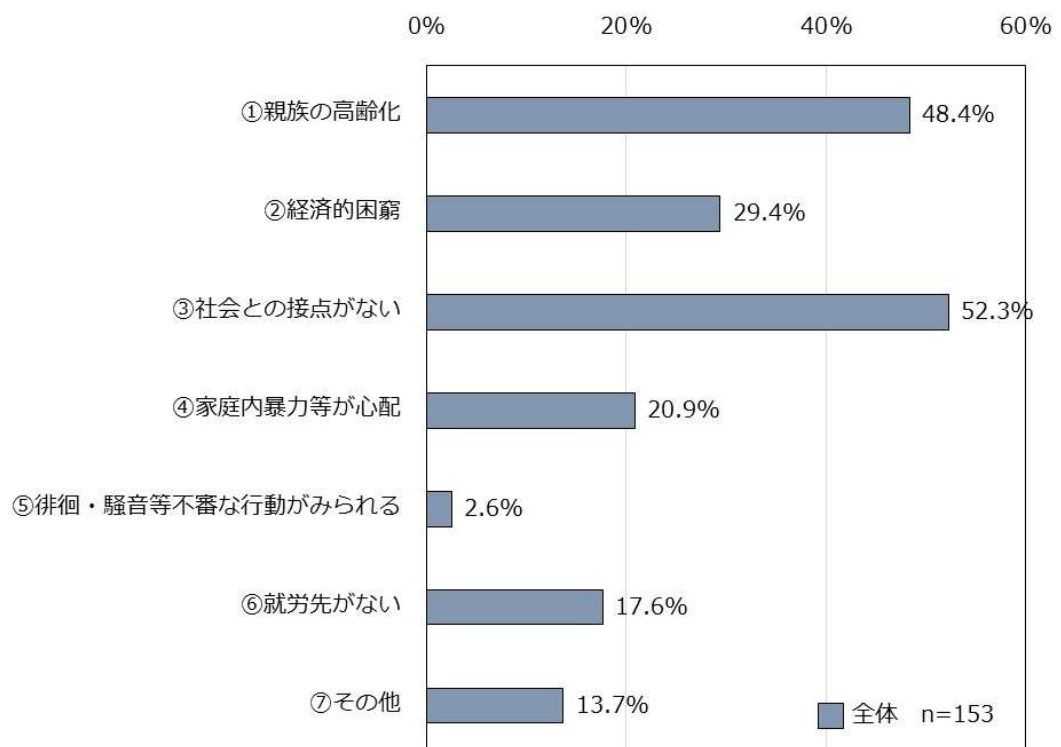
ひきこもりの状態の方が医療機関や福祉サービスと関わりがあったかについては、「医療機関に関わっている」が35.3%、「福祉サービスに関わっている」が18.3%となっています。



⑩ その方やその方の家族が抱える問題点は何ですか。(複数回答可)

ひきこもりの状態の方やその家族が抱える問題点については、「社会との接点がない」が52.3%、「親族の高齢化」が48.4%、「経済的困窮」が29.4%となっています。

「その他」には“コミュニケーションが苦手”、“独居のためわからない”、“受診ができていない”などとなっています。



第4章 まとめ

1. まとめ

ア 今回の調査でわかったひきこもりの方の状態

今回、市で初めて実施した調査において、ひきこもりの状態にある当事者からの声を伺うことができました。しかし、当事者またはそのご家族などからの回答数が24件だったため、まだ一部の方の状態や声であると考えています。今回のアンケートの回答では圧倒的に男性が多く、10年以上長期的にひきこもりの状態にある方がいることがわかり、きっかけについても知ることが出来ました。

ひきこもりの状態になったきっかけについては「不登校」も多いこともわかり、今後の支援の検討においては教育機関等との連携の必要性があることが伺えました。当事者の方の居住地域に偏りは見られておらず、市内全域に今後何らかの支援が必要と見られる方が在住していることもわかりました。

イ 支援状況について

現在、支援を「受けておらず、受けてみたい（受けさせたい）」と考えている家族が多いことが把握できました。

一方、支援を「受けておらず、受けたくない（受けさせたくない）」という方も多く、回答者全員が「人と関わりたくない（関わらせたくない）」、「外に出るのが不安」、「どこに相談すればよいか分からない」を理由としており、支援にあたっては、状況把握や本人、ご家族の気持ちを丁寧に汲み取り、寄り添っていくことが重要であることがわかりました。

ウ 家庭環境について

今回のアンケートの回答者は「流山市民で、ひきこもり状態の方のご家族やご親族」が最も多かったです。ひきこもりの状態にある方は親族などの同居人がいるケースが多いですが、一人暮らしの方も一定数いることがわかりました。

エ 外出の実態について

外出の度合いとしては、「コンビニ程度は日常的に外出する」、「日常的ではないがたまに外出をする」という状態であることがわかりました。一方、「ほとんど自室から出ずに生活している」方がいることがわかりました。

オ 当事者または家族が抱える問題について

「社会との接点がない」、「親族の高齢化」を多くの方が問題として回答しています。さらに「経済的困窮」、「就労先がない」ことも問題として回答があり、将来的な孤立や生活困窮、就労などの問題を抱えていることがわかりました。

カ 望んでいる支援について

ひきこもりの悩みを抱えている方や困っている方の支援については、現在、支援を受けているまたは受けてみたいと思っているところが「医療機関（病院等）」、「行政機関（相談支援）」、「行政機関（保健部署）」、「NPOなどの支援機関」ということがわかり、このような関係機関が相談の入口になり得る可能性があるとわかり、望んでいる支援内容については「気軽に相談できる窓口の設置」、「就労や就学に向けた支援」、「生活の支援」などが多いことがわかりました。

このアンケート結果により、ひきこもりの悩みを抱えている方や困っている方の状況、望んでいる支援などが見えてきました。こうした当事者等からの貴重なご意見を参考にし、生活困窮者自立支援事業の中で行っているひきこもりの状態にある方への支援をさらに強化していくとともに、令和6年度から開始予定の（仮称）重層的支援体制整備事業においても参加支援事業の居場所づくりなどの支援体制を検討していきます。また、今後も各機関との連携を強化し、当事者や家族が不安や悩みを一人で抱え込むことがないよう、適切な支援体制づくりに取り組んでいきます。

第5章 資料編(使用した調査票)

問9 問3で回答されたひきこもり状態の方は現在（相談）支援を受けていますか。

- 1.受けている →問10へ
- 2.受けておらず、受けてみたい（受けさせたい） →問10へ
- 3.受けておらず、受けたくない（受けさせたくない） →問11へ
- 4.わからない →問12へ

問10 問3で回答されたひきこもり状態の方が、現在（相談）支援を受けている、または受けてみたい（受けさせたい）ところはどこですか。（複数回答可）

- 1.医療機関（病院等） →問12へ
- 2.行政機関（相談支援） →問12へ
- 3.行政機関（保健部署） →問12へ
- 4.行政機関（生活保護） →問12へ
- 5.NPOなどの支援機関 →問12へ
- 6.教育機関（学校等） →問12へ
- 7.その他 →問12へ
- 8.わからない →問12へ

問11 問9で回答されたひきこもり状態の方が、（相談）支援を受けたくない（受けさせたくない）理由を教えてください。（複数回答可）

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1.人と関わりたくない（関わらせたくない） | 2.外に出るのが不安 |
| 3.どこに相談すればよいか分からない | 4.周囲に知られたくない |
| 5.家族間で支援している | 6.経済的に支援を受けられない |
| 7.手続きが大変である | 8.特に理由はない |
| 9.その他 | |

問12 ひきこもり状態の方にどのような支援が必要と考えますか。（複数回答可）

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1.気軽に相談できる窓口の設置 | 2.悩みを話し合い、集える場所の紹介や設置 |
| 3.生活の支援 | 4.就労や就学に向けた支援 |
| 5.福祉サービスの申請支援 | 6.医療機関の紹介 |
| 7.自宅への訪問支援 | 8.その他 |
| 9.わからない | |

問13 自由意見

3. 事業者用アンケート【別紙】

問1の③で回答されたひきこもり状態にある方について

①その方の年齢を教えてください。

- 1.15歳以下 2.16～19歳 3.20～29歳 4.30～39歳 5.40～49歳
6.50～59歳 7.60～64歳

②その方の性別を教えてください。

- 1.男 2.女 3.わからない

③その方のお住まいを教えてください。

- 1.北部地区
(東深井・西深井・江戸川台・こうのす台・美原・富士見台等)
2.中部地区
(東初石・西初石・駒木・駒木台・美田・若葉台・おおたかの森等)
3.南部地区
(流山・加・平和台・西平井・鱈ヶ崎・三輪野山・南流山・木等)
4.東部地区
(宮園・野々下・松ヶ丘・向小金・長崎・前ヶ崎・名都借・思井等)
5.わからない

④その方の同居の家族を教えてください。(複数回答可)

- 1.同居していない(一人暮らし) 2.親(父又は母) 3.配偶者 4.子や孫
5.兄弟姉妹 6.祖父母 7.その他 ()
8.わからない

⑤その方がひきこもり状態になってからの期間を教えてください。

- 1.1年未満 2.1～5年 3.6～9年 4.10～20年 5.21年以上
6.わからない

⑥その方がひきこもり状態になったきっかけを教えてください。(複数回答可)

- 1.不登校(小・中・高校・大学等) 2.人間関係の問題 3.受験の失敗
4.就職の失敗 5.失業・退職 6.疾病(精神的なもの)
7.疾病(けが等) 8.事故や犯罪被害 9.離別・死別
10.性格的なもの 11.その他 ()
12.わからない

⑦その方がひきこもり状態にあることをどこで知りましたか。(複数回答可)

- 1.仕事(訪問等)で確認した 2.家族から相談を受けた 3.近所から情報提供を受けた
4.その他 ()

⑧その方のひきこもり状態の度合いを教えてください。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1.コンビニ程度は外出可能 | 2.たまに外出を見かける |
| 3.見たことはないが生活音を感じる | 4.窓も締切り、いる感じがしない |
| 5.その他 (|) |

⑨その方は医療機関や福祉サービスと関わりがありますか。(複数回答可)

- | | | |
|---------------|-----------------|-----------|
| 1.医療機関に関わっている | 2.福祉サービスに関わっている | 3.関わっていない |
| 4.わからない | | |

⑩その方やその方の家族が抱える問題点は何ですか。(複数回答可)

- | | | |
|-------------|--------------------|-------------|
| 1.親族の高齢化 | 2.経済的困窮 | 3.社会との接点がない |
| 4.家庭内暴力等が心配 | 5.徘徊・騒音等不審な行動がみられる | |
| 6.就労先がない | 7.その他 (|) |

流山市
ひきこもり実態アンケート調査
【結果報告書】

令和5年7月

発行：流山市

編集：流山市 健康福祉部 社会福祉課

〒270-0192 千葉県流山市平和台 1-1-1

電話：04-7150-6079